

ジンバブエ共和国月報(2019年1月)

主な出来事

【内政】

● 14～16日、ジンバブエ労働組合が、労働ストライキを呼びかけ、各地で暴徒と治安部隊との衝突が発生した。

【外政】

● 13～21日、ムナンガグワ大統領は、ロシア、ベラルーシ、アゼルバイジャン及びカザフスタンを歴訪した。予定されていた世界経済フォーラムへの出席はとりやめた。

【経済】

● 12日、ムナンガグワ大統領は、13日より適用される燃料価格の値上げを発表した。

● 当国でダイヤモンド採掘権を保持する外国企業として、露及び中国企業の2社に与えられることが決定された。

● 30日、ムナンガグワ大統領が、経済諮問委員会を設立した。

● 2018年12月のインフレ率(年率)は、42.09%で、ハイパー・インフレ後、最大のインフレ率を記録した。

【内政】

● 14～16日、大規模な労働ストライキが発生した

13日、ジンバブエ労働組合(Zimbabwe Congress of Trade Unions: ZCTU)が、全国民に対して、14～16日までの労働ストライキの呼びかけを行った。

14日、ハラレ市やブラワヨ市などの国民は、住民が仕事に行けないように、道路封鎖を行った。警察が各所に派遣され、暴徒化した住民に対して、催涙ガスや放水車に対応した。

15日、国防軍も派遣され、治安維持を行っていたが、各所で住民に暴力を振るっていたことが報告されている。また、政府は、インターネットサービスを遮断した。

16日、引き続き各所で暴力が続いていることが報告されている。(18日付デイリー・ニュース紙)

【外政】

● ムナンガグワ大統領によるロシア等歴訪

✓ 13～21日、ムナンガグワ大統領は、ロシア、ベラルーシ、アゼルバイジャン及びカザフスタンを歴訪した。(その後、世界経済フォーラム(ダボス会議)への出席が予

定されていたが、上記ストライキに対応するため日程を変更して急遽帰国した。) 各国における主な成果は以下の通り。

- ✓ 露では、「ム」大統領は、プーチン露大統領と首脳会談を行った。また、(海外貿易銀行である) 露の VTB 銀行は、当国の債務の解消並びにリスク及び新たな事業への財政支援に同意した。その他には、鉱業及び農業分野等における合意があった。
- ✓ ベラルーシでは、「ム」大統領は、ルカシェンコ・ベラルーシ大統領と首脳会談を行った。また、両国及び中国による三カ国協力の可能性の下、合弁会社を設置し、当国道路及び鉄道網を整備することに合意した。その他には、鉱業、インフラ分野等における合意があった。
- ✓ アゼルバイジャンでは、「ム」大統領は、アリエヴ・アゼルバイジャン大統領と首脳会談を行い、二国間合同委員会の設置、二国間投資保護及び二重課税の回避に関わる協定案を作成した。
- ✓ カザフスタンでは、「ム」大統領は、ナザルバエブ・カザフスタン大統領と協力可能な分野などについて首脳会談を行った。(16～23日付ヘラルド紙、20日サンデー・メール紙)

【経済】

● 2018年12月のインフレ年率

中央統計局(ZIMSTAT)は、2018年12月のインフレ率(年率)を42.09%と発表した。本インフレ率は、2009年2月に複数外貨制度を導入してハイパー・インフレが収束した後、最大のものとなった。

● 燃料価格の値上げ

12日、ムナンガグワ大統領は、13日より適用される燃料価格の値上げについて以下の通り発表した。

(1) 1リットルあたりの燃料価格は、軽油は3.11ドル、ガソリンは3.31ドルとする。

(2) 政府は、物価の更なる上昇を防ぐために、製造業、鉱業、商業、農業及び運輸業の分野で登録された事業者への燃料費に対する税の還付を行う。

(3) 当国の外交団並びに登録された外国の団体及び観光客は、軽油は1.24ドル/リットル、ガソリンは1.32ドル/リットルで購入できる。(13日付サンデー・メール紙、14日付デイリー・ニュース紙・ニュース・デー紙)

● ファスト・ジェット航空の運航停止

14日、ファスト・ジェット航空が昨今の当地情勢不安を受けて、当国での運航を停止し

た。なお、2月8日時点、ファストジェット機は国内便のみで運行再開している。(16日付デイリー・ニュース紙)

●中国及びロシア企業へのダイヤモンド採掘権認可

22日、チャランバ大統領報道官は、昨年12月に閣議決定されたダイヤモンド政策に則り、ムナンガグワ大統領が、当国でダイヤモンド採掘権を保持する外国企業として、露企業である Alrosa Diamond Company 社及び中国企業である Anjin Investments 社の2社に与えることを決定した旨明らかにした。(24日付ヘラルド紙)

●ベルギー経済団による大統領への表敬

25日、当国を訪問しているベルギー経済団のメンバー15名の内3名が、ムナンガグワ大統領を表敬した。右経済団のメンバーで運送会社を経営するブロウエ氏は、「ム」大統領表敬後、同氏のビジネスに加えて、ベルギー・ルクセンブルグ・アフリカ商工会 (Belgian-Luxembourg African Chamber of Commerce)による活動も当国で促進していく旨述べた。(26日付ヘラルド紙)

●経済諮問委員会の設立

30日、シバンダ大統領・内閣府長官は、ムナンガグワ大統領が当国の経済界から26名を選出して経済諮問委員会 (Presidential Advisory Council: PAC)を設立した旨明らかにした。(31日付ヘラルド紙)

●南ア企業による炭層メタン採掘

30日、南アフリカ企業の Tumahole Consortium 社(以下、「T」社)は、ムベテ当地南ア大使と共にチウエンガ副大統領を表敬した。「T」社は、当国のルパネ地区における炭層メタン採掘事業への投資のために準備を進めており、総額550億ランドの投資をする予定。(31日付ヘラルド紙)